

□ 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A項

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。
- d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B項

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C項 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

- a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。
- b 脱字。
- c 文末の句点の脱落。

*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

- d その他不適切と判断せざるをえない箇所。
- e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「…とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
- c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。
- d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

一 評論文（文学部）（45点）

問1 7点

（模範解答例）

A①○1点

A②○1点

A③○1点

われわれは世界を、（いま・ここ）を超えた実在、すなわち一定の時間大まかな

自己同一性を保つ存在からなるものと見ているが、

B①○1点

B②○1点

B③○1点

事実の世界では、時間が経つにつれて、眼前の現象は刻々と変化しているというこ

X〈逆説⇕矛盾を含むこと〉○1点
と。（7点）

【構造点】

・Xは、傍線部を、〈矛盾〉する二条件A、Bに引き裂いて説明する、〈逆説⇕矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、A、B内の要素がそれぞれ一つ以上入っていれば、この構造の骨組みが成立しているのみならず1点加算。

X〈逆説⇕矛盾を含むこと〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

◎採点のポイント

※A、Bは条件同士において、また各条件内の要素同士においても原則的に部分採点可能とする。（6点満点）

※ただし、【構造点】Xは、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。（1点）

A 「われわれは世界を、（いま・ここ）を超えた実在、すなわち一定の時間大まかな自己同一性を保つ存在からなるものと見ているが、」（3点）

※傍線部を説明するための一方の条件（われわれの世界への態度）。

① 「われわれは世界を、」の要素に1点

○ 「世界に対してわれわれは、」「われわれの世界を、」などでも可。

- × 「われわれ」「世界」のニュアンスの二成分がそろっていないなければ×0点。
- ② 「いま・ここ」を超えた」の要素に1点。
- 「いま・ここ」を超越した」「いまのここを超えた」など
- 「現在、この地点」のニュアンスと、それを「超える」ニュアンスがあれば可。
- × 「いま・ここ」の超越」の成分が入っていないなければ×0点。
- ③ 「実在、すなわち一定の時間大まかな自己同一性を保つ存在からなるものと見ているが、」の要素に1点。
- 「実際に存在するもの、つまりある程度自己同一性を維持している存在からなる見ているが、」「現実にある事物、あるいは一定期間アイデンティティを保持している存在からなる」とみなしているが、」などでも可。
- × 「実在」「一定時間の自己同一性を保持する存在」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

B 「事実の世界では、時間が経つにつれて、眼前の現象は刻々と変化しているという」と。(3点)

※傍線部を説明するための、Aとは〈矛盾〉する他方の条件(≠事実世界)。

- ① 「事実の世界では、」の要素に1点。
- 「事実世界では、」「リアルな世界では、」「実際には」などでも可。
- × 「事実世界」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。
- ② 「時間が経つにつれて、」の要素に1点。
- 「時間の経過とともに、」「時間が過ぎるとともに、」などでも可。
- × 「時間の経過」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。
- ③ 「眼前の現象は刻々と変化しているということ。」の要素に1点。
- 「眼前の現象は絶えず変転しているということ。」「目の前の現象は常に移り変わってゐるということ。」「などでも可。
- × 「眼前の現象」「刻々と変化」のニュアンスの二成分がそろっていないなければ×0点。

問2 6点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

A③○1点

眼前の、あるいは思い出す限りの過去の現象も、ただ「あった」という言葉の意味としてあるだけで消えてしまっているのだから、

B①○1点

B②○1点

客観的時間を前提して、微小な〈いま〉が次々に「過去へ移行している」と思い込ま

X〈逆説⇕矛盾を含むこと〉○1点

せること。 (6点)

【構造点】

・Xは、傍線部を、A、Bの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明する、〈逆説⇕矛盾すること〉の構造への評価である。ここでは条件A、Bの要素がそれぞれ一つ以上そろっていれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X〈逆説⇕矛盾を含むこと〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

◎採点のポイント

※A、Bは条件同士において、また各条件内では要素同士においても、原則的に部分採点可能とする。(5点満点)

※ただし、【構造点】Xは、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。(1点)

A 「眼前の、あるいは思い出す限りの過去の現象も、ただ『あった』という言葉の意味としてあるだけで消えてしまっているのに、」(3点)

※傍線部を説明するための一方の条件。

① 「眼前の、あるいは思い出す限りの過去の現象も、」の要素に1点。

○ 「眼前の現象の『さつき』の姿も、思い出す限りの過去の現象も、」「眼前を通り過ぎた、あるいは思い出す過去の現象も、」などでも可。

× 「眼前」「思い出す」「過去の現象」のニュアンスの三成分がそろっていないならば×0点。

② 「ただ『あった』という言葉の意味としてあるだけで」の要素に1点。

○ 『あった』という言葉の意味においてのみあるだけで「あるのは『あった』という言葉の意味においてだけで」などでも可。

× 『あった』という言葉の意味としてあるだけ」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。(「言葉」を欠いても×。)

③ 「消えてしまっているのに、」の要素に1点。

○ 「消滅してしまっているのに、」「どこにもないのに、」などでも可。
× 「消滅」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

B 「客観的時間を前提して、微小な〈いま〉が次々に『過去へ移行している』と思いつまさせること。」(2点)

※傍線部を説明するための、Aとは矛盾する他方の条件。

① 「客観的時間を前提して、」の要素に1点。

- 「客観的時間を想定して」、「客観的時間の中で」、「などでも可。
- × 「客観的時間を前提」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。
- ② 「微少な〈いま〉が次々に『過去へ移行している』と思いつまさせること。」「の要素に1点。
- 「微少な〈いま〉が次々に過去へと遠ざかると信じつまさせること。」「微少な現在が次々に過去へと流れ去ると思わせること。」などでも可。「微少な〈いま〉は「刻々と(過去へ移行する)」などという表現で代用可とする。
- × 「微少な〈いま〉の過去への移行」「思いつまさせる」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。「(微少な」のニュアンスを欠いても×。)

〔別解〕

A①○1点

A②○1点

眼前の、あるいは思いつまりの過去の現象も、ただ「あつた」という言葉によ

A③○1点

って意味づけしているだけで、消えてしまっているのに、

B①○1点

B②○1点

客観的時間を前提に、刻々と「過去へ移行している」と語ることで、そのように錯

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉○1点

覚させること。(6点)

※ B②の「刻々と」に「微少な〈いま〉」のニュアンスが含まれているとみなし、全要素・構造ともにそろった正解とする。

問3 5点

(模範解答例)

A○1点

ヴェスヴィウス火山からの火砕流に襲われたポンペイには、

B①○1点

B②○1点

当時の物質も光も消滅して、現在の物質だけがあり、

C○1点

X 〈分析〓分けること〉○1点

建物、人々、犬の「かたち」が残るばかりであること。(5点)

【構造点】

・ Xは、傍線部を説明すべく、条件Aを、B、Cの〈矛盾〉しない二条件に〈分析Ⅱ分けること〉する構造への評価である。ここでは、条件Aと、条件Bの要素、条件Cがそろっていれば、この仕組みの骨組みは成立していると思なし1点加算。

X 〈分析Ⅱ分けること〉 A+Bの要素+C ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士において、また条件B内の要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(4点満点)

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。(1点)

※ 傍線部を説明するための話題提示の条件。

A 「ヴェスヴィウス火山からの火砕流に襲われたポンペイには、」(1点)

○ 「ヴェスヴィウス火山から噴出した火砕流に見舞われたポンペイには、」 「ヴェスヴィウス火山から流れ出た火砕流で被害を受けたポンペイには、」 などでも可。

(「ヴェスヴィウス火山からの火砕流を受けたポンペイには」でも可)

× 「ヴェスヴィウス火山からの火砕流に襲われた」「ポンペイ」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

B 「当時の物質も光も消滅して、現在の物質だけがあり、」(2点)

※ 傍線部の説明をすべく、さらにAを説明する一方の条件。

① 「当時の物質も光も消滅して、」の要素に1点。

○ 「往時の物質も光もそこにはなく、」「二〇〇〇年前の物質も光も完全に消滅しており、」などでも可。「かつてあった物質も光も失われ」などでも可。

× 「当時の物質と光の消滅」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「現在の物質だけがあり、」の要素に1点。

○ 「あるのはすべて現在の物質であり、」「現在の物質しか存在せず、」などでも可。
× 「現在の物質だけ」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 「建物、人々、犬などの『かたち』が残るばかりであること。」「(1点)

※ 傍線部の説明をすべく、さらにAを説明する、Bとは〈矛盾〉しない他方の条件。

○ 「大通り、建物、人々などの『かたち』ばかりが残っているということ。」「住居、人間を含めた生物などの『かたち』しか残っていないこと。」などでも可。
「かたち」は「見た目」など、ニュアンスが同じと判断できるものであれば可。

× 「大通り、部屋や階段、人々、番犬」に相当する成分が二つ以上と、『かたち』が残るだけ」のニュアンスの成分がそろっていないければ×0点。

〔別解〕

A○1点

ヴェスヴィウス火山からの火砕流に襲われたポンペイには、

B○1点

当時の物質も光も消滅して、

C○1点

B②○1点

建物、人々、犬などの「かたち」だけを残した 現在の物質があるばかりであること。

X へ分析し分けること ○1点 (7点)

※ B②の位置が違っているだけの、内容・構造ともにそろった正解。

問4 7点

(模範解答例)

A○1点

「二〇〇〇前にヴェスヴィウス火山の火砕流によって壊滅した街」という意味付けは、

B○1点

現地の光景を前にしても、

C○1点

X へ分析し分けること ○1点

東京で写真集を前にしても

D①○1点

D②○1点

変わらず、「あのとぎのポンペイ」は端的に「ない」のであり、無に近づけないの

は同じだから。

Y〈共通性の抽象による総合⇨共通性を引き出してまとめること⇨帰納〉○1点 (7点)

【構造点】

・Xは、傍線部を説明すべく、話題のAを、B、Cの〈矛盾〉しない二条件に〈分析⇨分けること〉して説明してゆく構造への評価である。ここでは、条件A、B、Cがそろっていれば、この構造は成立していると思なし1点加算。

X〈分析⇨分けること〉 A+B+C ○1点

・Yは、B、Cから共通性を引き出してDにまとめて結論づける、〈共通性の抽象による総合⇨共通性を引き出してまとめること⇨帰納〉の構造への評価である。条件B、Cと、Dの要素がそろっていれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

Y〈共通性の抽象による総合⇨共通性を引き出してまとめること⇨帰納〉 B+C+Dの要素 ○1点

◎採点のポイント

※A、B、C、Dは条件同士において、また条件D内では要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(5点満点)

※ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、条件、要素の組み合わせの意味内容が成立している場合にのみ加算する。(2点満点)

A 『二〇〇〇前にヴェスヴィウス火山の火砕流によって壊滅した街』という意味付けは、「(1点)

※傍線部の理由説明をするための話題の条件である。

○ 「二〇〇〇前にヴェスヴィウス火山の火砕流で滅んだ街という捉え方は、「古代ローマ時代にヴェスヴィウス火山の火砕流で消滅した街という意味付与は、」などでも可。「古代ローマ時代にヴェスヴィウス火山の火砕流で廃墟となった街という意味付けは」などでも可。

× 『二〇〇〇前にヴェスヴィウス火山の火砕流によって壊滅した街』「意味付け」の二要素の二成分がそろっていないければ×0点。

B 「現地の光景を前にしても、」(1点)

※傍線部を説明すべく、Aを説明して行く一方の条件。

- 「現地の光景を実際に眺めていても、「現地の光景を眼前にしている場合でも」「などでも可。」「ポンペイを訪れて周囲の風景を眺めているときも」などでも可。
- × 「現地の光景を前にする」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 「東京で写真集を前にしても」(1点)

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明して行く、Bとは〈矛盾〉しない他方の条件。

- 「東京で写真集を眺めていても」、「東京の自宅で写真集を眺めている場合でも」などでも可。

× 「写真集を眺める」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

D 「変わらず、『あのとときのポンペイ』は端的に『ない』」であり、無に近づけないのは同じだから。(2点)

※ B、Cから共通性を引き出してまとめ、結論づける条件。

① 「変わらず、」の要素に1点。

○ 「同様であり、」「変わることはなく、」などでも可。

× 「変わらない」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 『あのとときのポンペイ』は端的に『ない』」であり、無に近づけないのは同じだから。の要素に1点。

○ 「二〇〇〇年前のポンペイ事実としてないのであり、」「当時のポンペイは明確にないのであり、無に接近できないのはおなじだから。」などでも可。

「二〇〇〇年前に火砕流よって破壊された町は端的にないのであり、無に『近づ』くことができないことに変わりはないから。」などでも可。

× 『あのとときのポンペイ』の非在「無に近づけないのは同じ」ニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。(同じ)「変わりはない」のニュアンスのみ無いものも×。()

問5 8点

(模範解答例)

A 〇1点

当時ポンペイを構成していた自己同一的・実在的物体は定義上存在していたろうが、

B ① 〇1点

B ② 〇1点

それらはもちろん街全体、家、道路、人々、犬等も、当時の物質にこびりついて過去

へ推移したのではなく、

B③○1点

B④○1点

その時々の言語を学んだ観察者が そのつど意味付与することでのみ「存在」する、

B⑤○1点

「ない」にも「いつ」にもない「不在」としてあるのだと「いつ」と。

X〈分析〓分けること〉○1点 Y〈逆説〓矛盾を含むこと〉○1点 (8点)

【構造点】

・Xは、条件B内で、B①を、B②と〈B③+B④+B⑤〉の〈notP↔butQ〉の構文を構成する〈矛盾〉しない二部分に〈分析〓分けること〉として説明する構造への評価である―〈notP↔butQ〉の構文は例えば〈男じゃないよ、女だよ〉のように、否定の成分〈not(じゃないよ)〉が入ることによって、〈男じゃない〓女〉となって、〈矛盾〉しない二成分に〈分析〓分けること〉する構造を形成する。ここでは、B①、B②、〈B③〉、B④、B⑤のいずれか〉の要素がそろっていれば、この構造の骨組みは成立していると見なして1点加算。

X〈分析〓分けること〉 B①+B②+〈B③〉、B④、B⑤のいずれか〉 ○1点

・Yは、傍線部を、一見〈矛盾〉する条件A、Bに引き裂いて説明する、〈逆説〓矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、条件Aと、条件内のBの要素があれば、この構造の骨組みは成立していると見なし1点加算。

Y〈逆説〓矛盾を含むこと〉 A+Bの要素 ○1点

◎採点のポイント

※A、Bは条件同士において、また条件B内では要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(6点満点)

※ただし、【構造点】X・Yは、右に示した条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。(2点満点)

A 「当時ポンペイを構成していた自己同一的・実在的物体は、定義上存在していたろうが、」(1点)

※傍線部を説明するための一方の条件。

○ 「当時のポンペイを形成していた自己同一的・実在的物体の集合は、定義により存在していたであろうが、」「二〇〇〇年前のポンペイを構成していた自己同一的で実在的な物体は、定義の上では存在していたであろうが、」などでも可。

× 「当時のポンペイを構成していた自己同一的・実在的物体」「定義上存在」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

B 「それらはもちろん街全体、家、道路、人々、犬等も、当時の物質にこびりついて過去へ推移したのではなく、その時々を学んだ観察者がそのつど意味付与することのみ『存在』する、『古い』にも『いつ』にもない『不在』としてあるのだということ。」

(5点)

※傍線部を説明するための、Aとは一見〈矛盾〉する他方の条件。

① 「それらはもちろん街全体、家、道路、人々、犬等も、」の要素に1点。

※条件B内部での話題提示の要素。

○ 「それら以上にポンペイの街全体、個々の家、人々なども、」「それらだけでなく、街全体、人々、番犬等も、」などでも可。

× 「それら(非物体)」「街全体、個々の家、道路、人々、番犬等(から二つ以上)」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点

② 「当時の物質にこびりついて過去へ推移したのではなく、」の要素に1点。

※条件B内部で、〈notP～butQ〉の〈notP〉の部分を作る要素。

○ 「二〇〇〇前の物質に付着して過去へ移行したわけではなく、」「当時の物質に乗っかって過去へと遠ざかったのではなく、」などでも可。

× 「当時の物質に付着」「過去への移行の否定」のニュアンスの二成分が入っていないければ×0点。

③ 「その時々を学んだ観察者が」の要素に1点。

※条件B内部で、〈notP～butQ〉の〈butQ〉の部分を作る1/3の要素。

○ 「その時々を学んだ人間が」「その時々を言葉を得た観察者が」などでも可。

× 「その時々を学んだ観察者(人々)」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

④ 「そのつど意味付与することのみ『存在』する、」の要素に1点。

※条件B内部で、〈notP～butQ〉の〈butQ〉の部分を作るもう1/3の要素。

○ 「その度ごとに意味付与することではか「存在」しない、」「そのつどの意味付与が「存在」させるにすぎない、」などでも可。

× 「意味付与のみ」「存在」する」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

⑤ 「『古い』にも『いつ』にもなく『不在』としてあるのだということ。」の要素に1点。

※条件B内部で、〈notP～butQ〉の構文を構成する〈butQ〉の部分を作る残りの1/3の要素。

○ 「空間的にも時間的にも『不在』としてあるのだということ。」「『古い』にも『いつ』にも定位できない『不在』としてあるということ。」などでも可。

× 「『古い』にも『いつ』にもなく」「『不在』としてある」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

問6 6点

(模範解答例)

A ○1点

ポソソペイの再現は、

B ○1点

偽物という反論に遭おうが、

C ①○1点

C ②○1点

ポソソペイを形成していた物質は消滅し、その意味も言語上にしかないのだから、

C ③○1点

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 ○1点

そっくりなだけでも見る価値はあろうから。(6点)

【構造点】

・Xは、傍線部を説明すべく、条件Aを、一見〈矛盾〉する、条件B、Cに引き裂いて説明する、〈逆説〓矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、条件A、Bと、条件C内の要素がそろっていればこの構造の骨組みは成立しているとみなして1点加算。

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 A+B+Cの要素 ○1点

◎採点のポイント

※A、B、Cは条件同士においても、また条件C内では要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(5点満点)

※ただし、【構造点】Xは、右に示した条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。(1点)

A 「ポソソペイの再現は、」(1点)

※傍線部の理由説明するための話題提示の条件。

○ 「ポソソペイの再現は、」「ポソソペイの正確な再現は、」などでも可。 ×

「ポソソペイの再現」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

B 「偽物という反論に遭おうが、」(1点)

※傍線部の理由説明をすべく、Aを説明してゆく一方の条件。

○ 『本物のポンペイ』ではないという反論が起こるかもしれないが、「本物ではないと非難されるかもしれないが、」などでも可

× 「偽物という反論」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 「ポンペイを形成していた物質は消滅し、その意味も言語上にしかないのだから、そっくりなだけでも見る価値はあろうから。」

※傍線部の理由説明をすべく、Aを説明してゆく、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。

① 「ポンペイを形成していた物質は消滅し、」の要素に1点。

○ 「ポンペイを構成していた物質は完全に消失し、」「ポンペイを形作っていた物質は完全に消え去り、」などでも可。

× 「ポンペイを形成していた物質の消滅」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「その意味も言語上にしかないのだから、」の要素に1点。

○ 「ポンペイを形成する意味もともと『ど』『ど』『いつ』にもないのだから、」「ポンペイの意味は言葉上にしかないのだから、」などでも可。

× 「ポンペイの意味の不在」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「そっくりなだけでも見る価値はあろうから。」の要素に1点。

○ 「外見が似ているだけでも目にする価値はあるだろうから。」「そっくりな光景というだけでも目の保養にはなるだろうから。」などでも可。

× 「そっくり」「見る価値はある」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

問7 6点

(模範解答例)

A ○ 1点

ポンペイは、

B ○ 1点

物質が全て当時と入れ替わり、

C ○ 1点

「かたち」も過去から「手繰り寄せている」わけではなく、

X (分析) 分けること ○ 1点

D ○ 1点

その「かたち」に私が意味付与する限りで立ち現れるにすぎないこと。(6点)

Y (総合) まとめること ○ 1点

【構造点】

・ Xは、傍線部を説明すべく、条件Aを、〈矛盾〉しない二条件B、Cに〈分析Ⅱ分けること〉してゆく構造への評価である。ここでは、条件Aに加えて、B、Cがそろっていれば、この構造が成立しているとみて1点加点。

X〈分析Ⅱ分けること〉 A+B+C ○1点

・ Yは、条件B、Cを、条件Dに〈総合Ⅱまとめること〉する構造への評価である。ここでは、条件B、C、Dがそろっていれば、この構造が成立しているとみて1点加点。

Y〈総合Ⅱまとめること〉 B+C+D ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士において、原則的に部分採点可能とする。(4点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した条件を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「ポンペイは、」(1点)

※ 傍線部を説明するための、話題提示の条件。

× 「ポンペイ」の成分が入っていないければ×0点。

B 「物質が全て当時と入れ替わり、」(1点)

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明して行く一方の条件。

○ 「物質が当時とは全く違っており、」「当時のものはかけらも残されておらず、」などでも可。

× 「物質」「当時と入れ替わり」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

C 『かたち』も過去から『手繰り寄せている』わけではなく、(1点)

※ 傍線部を説明すべく、A説明して行く、Bとは〈矛盾〉しない他方の条件。

○ 『かたち』も過去から引き戻しているわけではなく、『かたち』も過去から引っ張り寄せているわけでもなく、「などでも可。」

× 『かたち』『過去から』手繰り寄せる』の否定」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点

D 「その「かたち」に私が意味付与する限りで立ち現れるにすぎないこと。」(1点) ※

B、Cをまとめて結論づける条件。

○ 『かたち』に私が意味を与える限りで浮上してくるにすぎないこと。「私がその『かたち』を意味づける限りにおいて現前するにすぎないこと。」などでも可。

× 『かたち』に意味付与「立ち現れるにすぎない」のニュアンスの二成分がそろって
いなければ×0点。

第2回九州大模擬採点基準 文学部大問二 古文

問1 (各1点×2) a || しか b || なれ

問2 (各1点×3) い || イ ろ || エ は || ア

問3 (各2点×4)

(2点)

問3・①・模範解答 長年の間 (2点)

【各部の採点】 2点満点。加ポイント1箇所。

「長年の間」……2点。「多くの年月」＋「間」の内容。完答。

a (1点) b (1点)

問3・②・模範解答 ②才能のある人が失脚し (2点)

【各部の採点】 2点満点。加ポイント2箇所。

a 「才能のある人が」…1点。「才能のある人」＋主格の意味。完答。「能力のある人が」でも可。

b 「失脚し」……1点。「活躍の場を失う」の意味

a (1点) b (1点)

問3・③・模範解答 ③それぞれが自分勝手なことをして (2点)

【各部の採点】 2点満点。加ポイント2箇所。

a 「それぞれが」……1点。「各々(おのおの)」のような解釈。

b 「自分勝手なことをして」……1点。「勝手な振る舞いをする」、「我が物顔に振る舞う」のような解釈。

a (1点) b (1点)

問3・④・模範解答 家康公以後の將軍の方々 (2点)

【各部の採点】 2点満点。加ポイント2箇所。

a 「家康公以後の」……1点。「家康公の子孫の」のニュアンス。 b 「將軍の方々」……1点。「將軍(達)」と書いてあること。

問4 1＝5点

a (1点)

問4・1・模範解答 ずっと優れた治世であると言われ続けてきたが、

b (1点) c (1点) d (1点)

才能ある人が失脚したり争乱が起こったりと、現在の江戸の御代にまさ

つてはいないと評している。(5点)

【各部の採点】 5点満点。加ポイント5箇所。

a 「ずっと優れた治世であると言われ続けてきたが、」……1点。「(延喜・天曆の時代は)優れた時代であると評価されていた」のような内容。「未来(も言われ続ける)」というニュアンスがある場合×(解答例5参照)。

b 「才能ある人が失脚したり」……1点「才人の失脚」の内容。「才人が活躍の場を失う」でも可。

c 「争乱が起こったり」…1点。「争乱の勃発」の内容。

d 「現在の江戸の御代にまさつてはいない」……1点。「今の時代にまさっていない」は「江戸時代」としてないので不可。

e 「と評している」……1点。文末処理。ここだけでは加点無し。

問4 2 || オ 3点

問5 1 || 3点

a (1点)

b (2点)

問5・1・模範解答 そのような国が豊かな時代は、これまでにないので (3点)

【各部の採点】 3点満点。加点ポイント2箇所。

a 「そのような国が豊かな時代は」：1点。「徳川幕府の豊かな時代」という内容。「平和」ではダメ。

b 「これまでにないので」……………2点。「今までに例がない」＋原因理由。
「今までになかったので」などのように過去の意味があるものは1点。

問5 2 || 6点

a (2点)

問5・2・模範解答 下剋上で争いが絶えなかった日本国を、

b (2点) c (1点)

家康公が内乱を鎮圧し諸国大名を従えることによって、民を暮らしやすくしたと

いう事情。 (6点)

d (1点)

【各部の採点】 6点満点。加点ポイント4箇所。

a 「下剋上で争いが絶えなかった日本国」：2点。上下関係が崩壊し互いに争っていたこの国という内容。「争いが絶えない」があれば○。

b 「家康公が内乱を鎮圧し諸国大名を従えることによって」……………2点。家康公が内乱を平定し、諸国大名を従えるという内容。

c 「民を暮らしやすくした」：1点。人民の生活を平和で豊かにしたという内容。

d 「という事情」：1点。文末のかたち。ここだけ正解は加点なし。

大問三 古文

問1 (各3点×3)

a (2点) b (1点)

問1・①・模範解答 和歌を詠もうとしたけれど、思いつかなくて (3点)

【各部の採点】 3点満点。加点ポイント2箇所。

a 「和歌を詠もうとしたけれど」…2点。「和歌を詠もうとする」＋過去＋逆接。「和歌を考えようとするが」は過去の意味がないので、1点。

b 「思いつかなくて」…1点。「思い浮かばなくて」でも可。「思い当たる」は×。

a (2点) b (1点)

問1・②・模範解答 すぐに思いつかんだ歌を書きましたのは (3点)

【各部の採点】 3点満点。加点ポイント2箇所。

a 「すぐに」…2点。「すぐに・即座に・ふと・はっと」などという即時の意味。

b 「思い浮かんだ歌を書きましたのは」…1点。「思いついた歌を書き留めたのは」「思いついた歌を書いたその歌は」のような準体法の解釈。

「～です・～ます」のような丁寧の意味。

a (2点) b (1点)

問1・③・模範解答 出来の良い歌を詠ませたのだから、生き永らえることができるはずはない だろう。 (3点)

【各部の採点】 3点満点。加点ポイント2箇所。

a 「出来の良い歌を詠ませたのだから」…2点。「素晴らしい歌を詠ませた」の内容＋「のだから」のような原因理由。完答。

b 「生き永らえることができるはずはないだろう」…1点。「生きる」＋不可能。完答。

問2 5点

a (1点) b (2点)

c (2点)

問2・模範解答 頼実の、五年命が縮まってもかまわないから、人に知られるほどの素晴らしい歌を詠ませてほしいという願い。(5点)

【各部の採点】 5点満点。加点ポイント3箇所。

a 「頼実の〜という願い」……………1点。設問に応じた答え方。

b 「五年命が縮まってもかまわないから」……………2点。歌が詠める代償に自らの五年間の命を与えても構わないという内容。「五年間分の」のような具体性がなければマイナス1点。

c 「人に知られるほどの素晴らしい歌を詠ませてほしいという願い。」人に称賛される歌を詠ませてほしい、すばらしい歌を詠ませてほしい でも可。……………2点。

問3 5点

問3・模範解答

a (1点)

ずっと木の葉の散る音のする宿では、

b (3点)

c (1点)

聞こえてくる音が落葉なのか時雨なのかを聞き分けることができないということ。(5点)

【各部の採点】 5点満点。加点ポイント3箇所。

a 「ずっと木の葉の散る音のする宿では」……………1点。

木の葉の音がする宿という内容。

b 「聞こえてくる音が落葉なのか時雨なのかを聞き分けることができない」……………3点。

時雨の音と落葉の音が聞き分けられないという内容。

c 「ということ」……………1点。

文末処理。ただしここだけ正解は加点無し。

問4 5点

問4・模範解答 頼綱が、通わなくなっていた女を再び愛するようになったということ。
(5点) a (2点) b (2点) c (1点)

【各部の採点】 5点満点。加点ポイント3箇所。

- a 「頼綱が、通わなくなっていた女を」…2点。二名の人物を明示する。
b 「再び愛するようになった」…2点。再び愛するようになったという内容。
c 「ということ」…1点。文末処理。ただしここだけ正解は加点無し。

問5 6点

- a (1点) b (1点) c (3点)

問5・模範解答 昔の人は相手の容貌の美しさだけでなく、和歌の力量に魅力を感じ、愛情が生じることもあったということ。(6点) d (1点)

【各部の採点】 6点満点。加点ポイント3箇所。

- a 「昔の人は」…1点。主体の明示。
b 「相手の容貌の美しさだけでなく」…1点。「外見だけでなく」という内容。
c 「和歌の力量に魅力を感じ、愛情が生じる」…3点。「和歌のすばらしさに魅力を感じ、愛情が生じる」という内容。
d 「ということ」…1点。文末処理。ただしここだけ正解は加点無し。

大問四問1(1)

基準 配点…6点

■形式上の不備

- ・一字でもひらがな以外の文字を用いているものは**全体0点**。
- ・句読点の有無は不問。

■模範解答

そのひとあげてかぞふ(う)べからず

(別解)

そのひとかぞふ(う)るにたふ(う)べからず

■採点方法

- ・各要素単独採点

要素A「其人」の読み方…そのひと〓1点

- ・「そのひとは」「も可とする。
- ・他は一字でも異なっていれば**要素A加点なし**(**要素A〓0点**)

要素B「勝数」の読み方

- (1) あげてかぞふ(う)〓4点
- (2) かぞふ(う)るにたふ(う)〓4点
- ・「勝」を、「あげて」または「たふ」以外の語として読んでいる場合(「かつ」「まさる」など)

は**要素B加点なし**(**要素B〓0点**)

- ・(1)(2)とも、「数」の活用の種類や活用形が誤っているものは**要素B1点減点**。
- (1) の場合、「かぞふる」「かぞへる」など。
- (2) の場合、「かぞふ」「かぞへる」など。
- ・(2)の場合、「勝」の活用の種類や活用形が誤っているものは**要素B1点減点**。
「たふる」「たへる」など。
- ・(2)の場合、「かぞふる」と「たふ」の間の「に」が抜けているものは**要素B2点減点**。

要素C「不可」の読み方…べからず〓1点

- ・「べからずらん」も可とする。
- ・他は一字でも異なっていれば**要素C加点なし**(**要素C〓0点**)

基準 配点…5点

■形式上の不備

- ・句読点の有無は問わない。

■模範解答

A 書物を著した人

は

B

数え切れないほど多い

■採点方法

- ・各要素単独採点

要素A「其人」の内容：書物を著した人〓1点

- ・「書物を書いた人」「著者」の意味であれば可。

- ・「三代・秦・漢以来」の要素があっても可。

- ・傍線部の後の「散亡摩滅し、百に一二も存ぜず（散逸したり摩滅したりして、ほとんど残っていない）」の内容を含めているものは**要素A加点なし（要素A〓0点）**。

要素B 不可勝数の訳：数え切れない〓4点

- ・「(すべてを) 数え切れない」の意であれば可。

- ・「すべてを」または「〓切れない」または「多い」の要素のない「数えられない」「数えることができない」は**要素B 2点減点**。

- ・「数え切れない」「数えることができない」の要素がなく、単に「多い」「非常に多い」のようになっているものは**要素B 3点減点**。

- ・「(すべてを) 数え切れない(ほど多い)」の解釈はできていても、その主語が「其人」でないものは**要素B 加点なし（要素B〓0点）**。

大問四 問2

基準 配点…4点(2点×2)

■形式上の不備

- ・()の有無は問わない。

■模範解答

- ② (ウ) ③ (ア)

■採点方法

- ・解答例のみ正解。

大問四 問3

■

基準 配点…3点(1点×3)

■模範解答

- (a) より (b) かくの^{こと}とし (c) もとより

■採点方法

- ・解答例のみ正解。

配点：7点

■形式上の不備

- ・句読点の有無は問わない。

■模範解答 同意表現可。ニュアンスが合っていれば許容。

A 昔の聖人や賢人の名が

B

いつまでも滅びないことを

C

敬慕し

D

ない者はいない

■採点方法 各要素単独配点

要素A 「古の聖賢の」：昔の聖人や賢人（の名）が 1点

・「昔の」は「古代の」「いにしえの」なども可とする。

・「聖人や賢人」は、「聖賢」でも可とする。

・「賢人」は「賢者」も可。

・「聖人」のみまたは「賢人」のみは要素A加点数なし（要素A 0点）。

・「聖賢」を「聖なる賢者」の意味として「尊い賢者」のようにしているものは要素A加点数なし（要素A 0点）。

A 0点。

・「〴〵の名」の有無は問わない。

・「〴〵の名」は「〴〵の偉大さ」「〴〵の文章」なども可。

要素B 「不朽を」：いつまでも滅びないことを 1点

・「後世に残ることを」「滅びないことを」「消えないことを」の意味であれば可。

・「いつまでも」はなくても可。

・「不朽であること」を「不朽さを」は許容する。

・「昔の聖人・賢人の中で、いつまでも滅びないものを」という意味に解釈しているものも可。

・「不朽を」は要素B加点数なし（要素B 0点）。

要素C「慕」：敬慕し〓1点

・「慕う」も可とする。

・「尊敬する」「あこがれる」なども可。

要素D「くざるは莫し」〓くない者はいない〓4点

・「くない者はない」も可。

・「者」は「事（こと）」「人」「学者」も可。

・「みなくする」と訳しても可。

(例) みな古代の聖人や賢人の名がいつまでも減びないことを慕う。

・「ない物 はない」は**要素D 2点減点**。

・「くないのではない」は**要素D 3点減点**。

・二重否定であることを理解していないものは**要素D 加点なし (要素D 〓0点)**

大問四 問5

・句読点の有無は問わない。

・文末が「くから」「くので」のように理由を表す形になっていないものは**1点減点**。

基準 配点：6点

■模範解答 同意表現可。ニュアンスが合っていれば許容。

A

すぐれた文章を書くために

B

どんなに苦心したとしても、

C

後世に残るものはほとんどないから。

■採点方法 各要素単独採点

要素A すぐれた文章（〓作品）を書くために：1点・「すぐれた」の要素はなくても可とする。

要素B 苦心したとしても：2点

・「苦心」は「努力」「工夫」なども可。

- ・「一生を費やしても」のような内容でも可。

要素C 後世に残るもの〔文章・作品〕はほとんどない：3点

- ・「後世に残ることは難しい」なども可。
- ・「苦労は」むだに終わってしまう」のような内容で、「むだに終わる」ことがどういふことを明示していないものは**要素C 1点減点**。
- ・「(全く) 後世に残らない」の意であるものは**要素C 2点減点**。

大問四 問6

- ・文末表現は不問。
- ・文末の句点がないものは**1点減点**。

基準 配点：10点

■模範解答

A

後世に残る文章を書くことの難しさを述べることで、

B (1) 徐無党が

C

文才への自信におぼれず

D

思索を深めるよう

B (1)

教え諭すとともに、

自分への戒めとすること。

要素A 後世に残る文章を書くことの難しさを述べる：2点

- ・「後世に残る」は「すぐれた」のような内容でも可。
- ・「後世に残る」あるいは「すぐれた」要素を欠くものは**要素A 1点減点**。

要素B 徐無党を教え諭す：3点

・「徐無党に（自分の考えを）教える（伝える）」「徐無党への教訓（助言）」「徐無党を励ます」「徐無党の努力を促す」という内容であれば可。

・「徐無党にくさせること」「徐無党にくてほしいから」のような形式でも可。

・「徐無党」は「徐生」「東陽（の）徐生」も可。

・固有名詞を出さず、単に「弟子」「生徒」としているものは**要素B 2点減点**。

要素C 教え諭しの内容（1）∴文才への自信におぼれず∥1点

・「文才（才能）に自信を持ちすぎるな」「徐無党の文才（才能）は十分とはいえない」「文才だけでは不十分だ」という内容であれば可。

要素D 教え諭しの内容（2）∴思索を深める∥1点

・「思索に励む」など、「思索（考えること）」の重要性に触れた内容であれば可。

・「思索を文章に残す重要性」などとしている場合はバツ。

要素E 自分への戒め∥3点

・「自分」は「欧陽脩自身」でも可。

大問四 問7

・（ ）の有無は問わない。

基準 配点∴4点

■模範解答

（ア）（エ）（カ）（コ）

■採点方法

・完答